



## 愛知の「働き方改革」取組事例 株式会社ホテル末広

所在地：愛知県蒲郡市

業種：旅館業

社員数：男性 15名 女性 18名（R4.6月現在）



### トップメッセージ・取組の目的

業務の効率を図り、若い人材が働きやすい環境を目指しております。

### 取組の概要

#### ○ 働き方改革のきっかけ

##### ● 経営を取り巻く環境等

- ① 旅館業界を取り巻く環境は目まぐるしく移り変わり、昨今ではインターネット予約の増加、団体旅行が減少する一方、今まで以上に細やかな対応が必要となる個人客が増えてきた。
- ② それにも関わらず、当時は休日や休暇が十分に確保できず、社員は心身ともに余裕がなくなっていた為に、接客の質が上がっていかない状態であった。
- ③ 旅館業という性質上、朝出勤した後、昼前後に一旦中抜けし、再び15時頃から夜まで勤務する社員も多かった。その上、客の入り具合によっては急遽出勤しなければならないこともあり、社員にとっては事前にプライベートの予定を立てにくい労働環境であった。

##### ● 週休3日制度の検討

- ① このような環境の中、社員の離職率は高く、又新たな人手の確保にも苦慮しており、このような状態が続くようでは、経営基盤そのものが揺らぐことにもなりかねない為、労働環境の改善は必至であった。
- ② 働きやすく、社員にとって魅力ある制度を構築するため、1年間かけて検討したところ、過去5年の実績では週半ばの客室稼働率は5割を切っていたことから、思い切って火・水・木曜日を旅館の休業日とすることを決断した。

## 取組の概要

### ○ 週休3日制度の開始

- 2019年4月から6月までを移行期間としたうえで、7月から週休3日制（GW、お盆、年末年始は除く）を開始した。
- 1年単位の変形労働時間制を導入し、早番（6：30～17：30）、遅番（11：00～22：00）の2シフトで、月10～14日の所定休日を設けることとした。これにより、年間の所定休日は、146日となった。
- 業務が滞らないようにする為、社員の休日は、旅館の休業日である火・水・木と、水・木・金の2つのパターンを設けた。

### ○ 業務効率化等の取組み

- 営業日を減らしたことによる売上減少をカバーするとともに、今後も継続的に事業が発展していく為に下記のような取組みを行った。
  - ① 従来は細分化されていた役割分担を見直し、各社員がさまざまな業務を行うことができるよう多能工化を図った。
  - ② 宿泊用の部屋を思い切って削減するとともに、人気が高まっていた昼食・日帰りプラン用の部屋を増やすこととした。

## 現状とこれまでの取組の効果

- 業務効率化等に取り組むことで、休日が増えても給与が下がらないようにした。
- 週休3日制度は新卒社員に特に好評で、この3年間の新卒定着率は90%となっている。
- 制度導入後、それまでは残業が多い社員で月40時間ほどあった所定時間外労働が、減少可能になった。